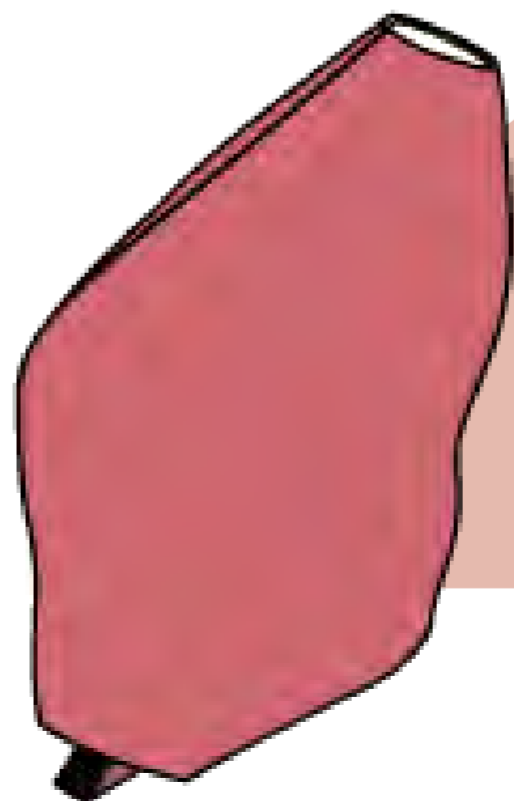
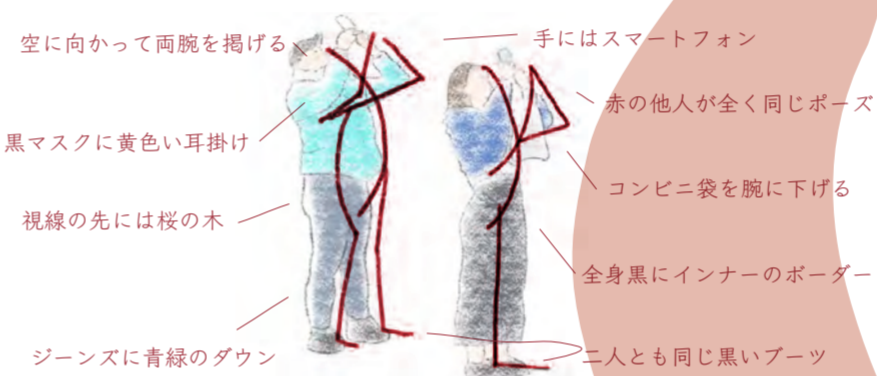
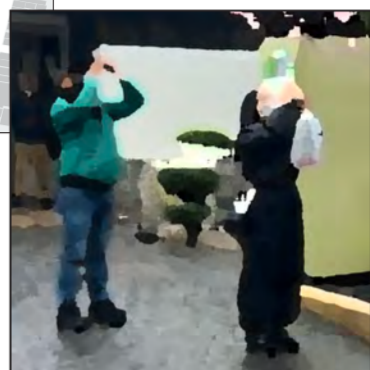
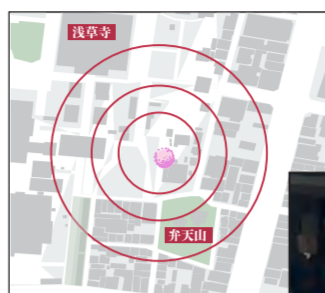
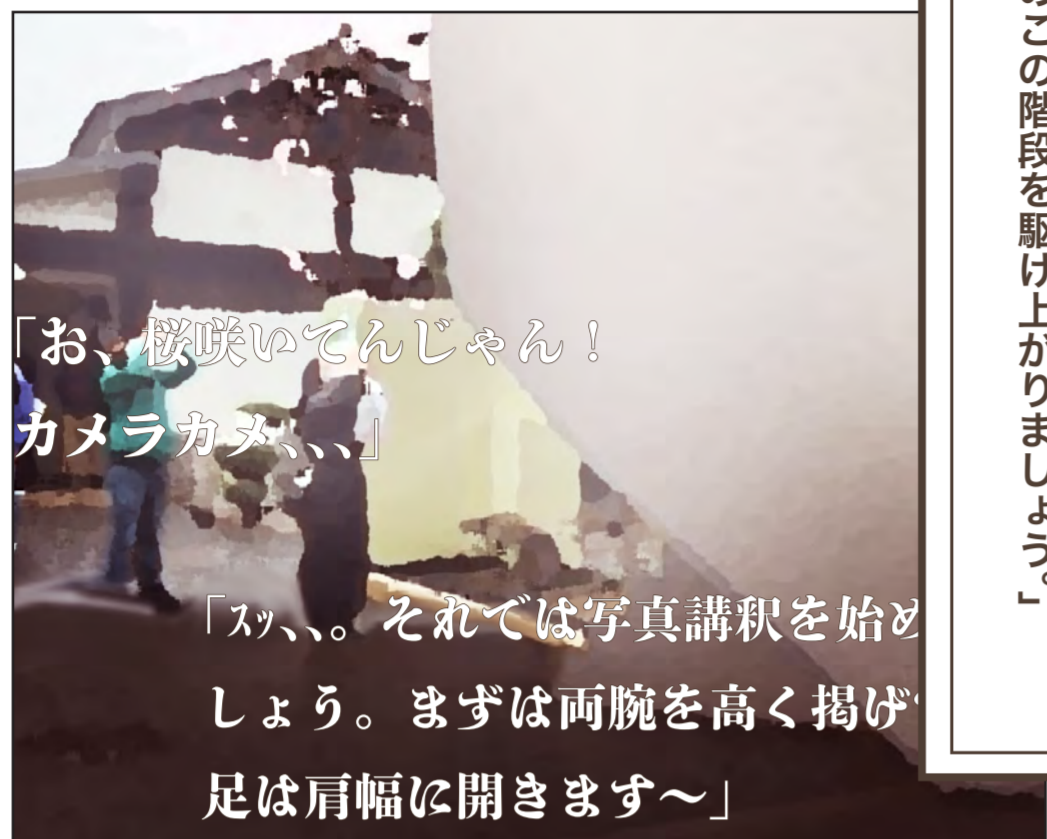


写真講釈

枕 人は皆、映えの下に同じだそうで――



一・権助がスマホを掲げると突然写真講釈が始まった。講師の女は、早口で指導を進める。「映えは今や人間を押し量るステータスです。その心得を〜」画面の先には巨大な物体。「では実践です。唯一無二の映えに向かって高さ八間のこの階段を駆け上がりましょう。」

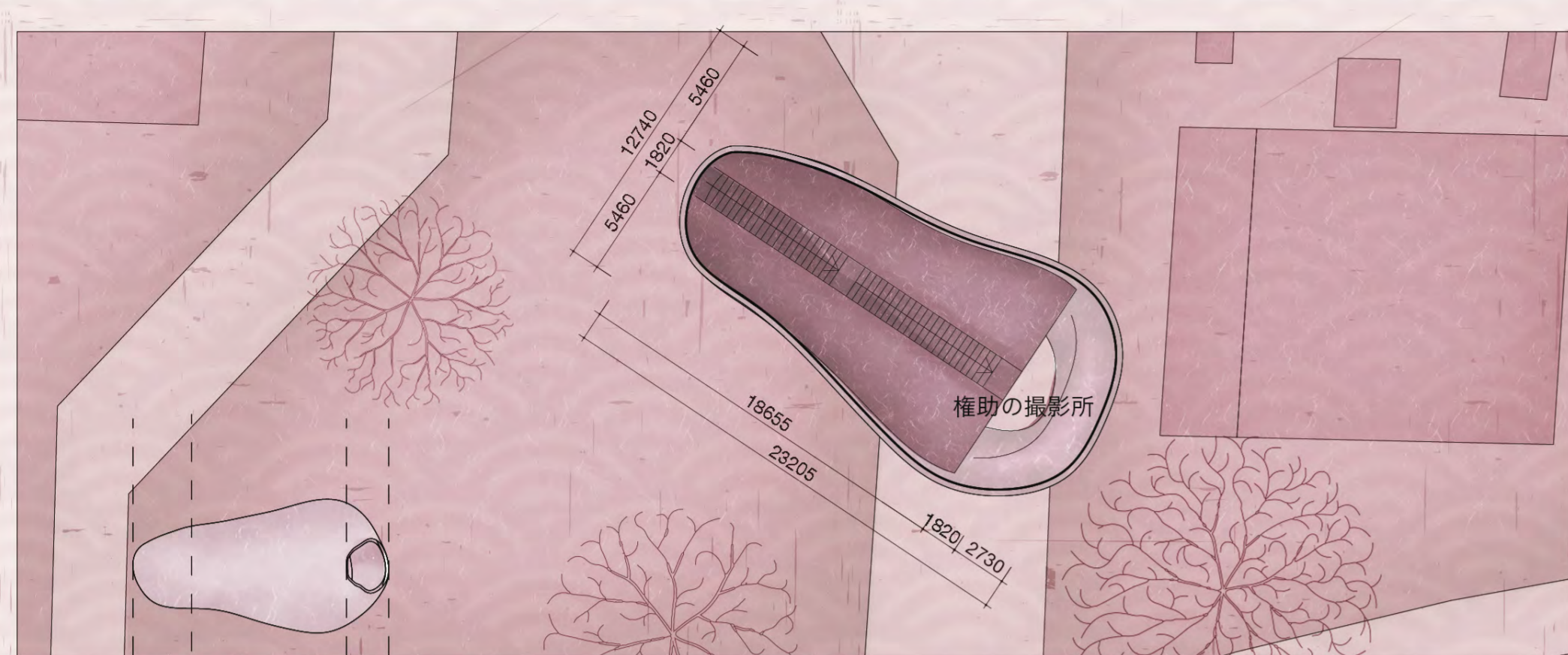


・・・今なんて言った？

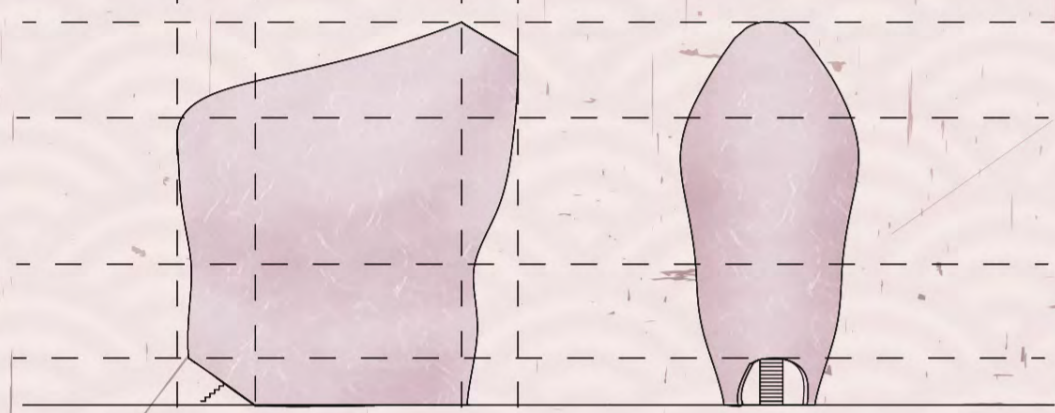
二・途方もない階段を駆け抜け頂上に辿り着いた。息を整え視線を上に向けると、洞窟のような空間にぽっかり空いた穴の先から一縷のスカイツリーが凛々しく伸びていた。



確かに美しい。
これが映えというやつか――

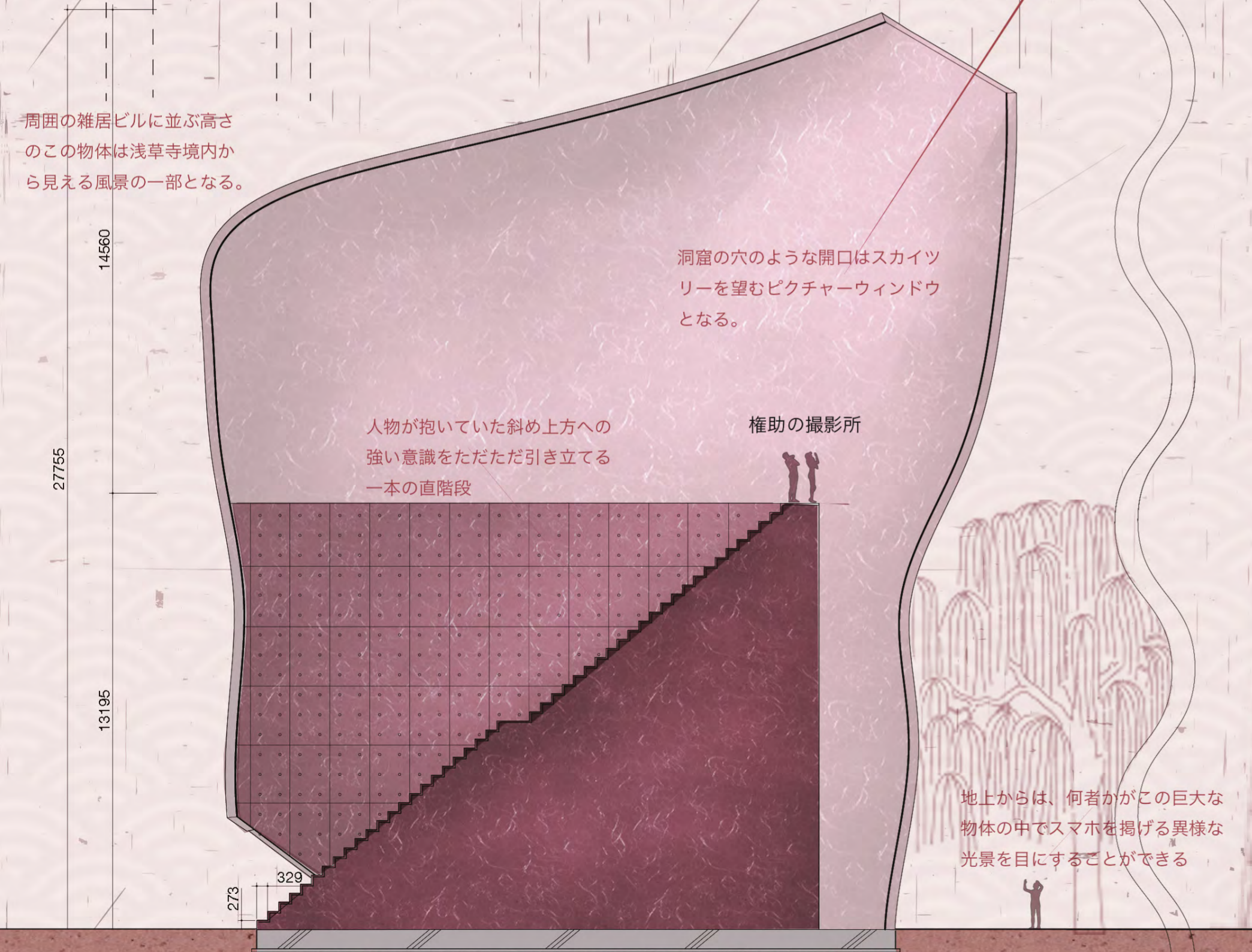


平面図 S=1/200 0 4 8 12m



スマホを掲げる人物のシルエットと、上方の撮影物への意識が形態となって現れる

周囲の雑居ビルに並ぶ高さのこの物体は浅草寺境内から見える風景の一部となる。



洞窟の穴のような開口はスカイツリーを望むピクチャーウィンドウとなる。

人物が抱いていた斜め上方への強い意識をただただ引き立てる一本の直階段

地上からは、何者かがこの巨大な物体の中でスマホを掲げる異様な光景を目にすることができる

断面図 S=1/100 0 2 4 6m



三ノぞう思いながらふと首を下ると、下では誰かがこちらに向けてカメラを構えていた。

どうやら僕らが映えているらしい。

